

## カナダ人物記⑮

インディアン芸術を再興した  
ハイダ族の彫刻家

# ビル・リード

ブリティッシュ・コロンビア州のク  
イーン・シャーロット島に住むハイダ  
族インディアン神話によると、人間  
は、はまぐりから生まれた。はまぐり  
の体内で幸せに眠っていたのを、狡猾  
なワタリガラスの甘言につられて  
この世にのこのこ出てきてしまっ  
た、というのである。

ブリティッシュ・コロンビア大  
学民族学博物館の正面ホールには、  
金色の巨大なカラスが、これまた  
巨大な貝の上に乗って、小さな  
人間が貝の中からはい出ようとす  
るこの歴史的瞬間を見守っている  
木彫り彫刻が、でんとおかれてい  
る。北西岸インディアン芸術のル  
ネサンスを不動のものにした作品「ワ  
タリガラスと人間誕生」を制作したの  
が、ハイダ族の血をひく彫刻家ビル・  
リードである。

クマやワシやカラスなどをデザイン  
したトーテムポールや飾り板は、今か  
ら三十年前には、クイーン・シャーロ  
ット島の岸辺に苔むし忘れられてい  
るか、あるいは博物館の奥深くひっそり  
と置かれている存在にすぎなかった。  
北アメリカ北西岸インディアン芸術

が世界的に知られるようになったのは、  
リードの力によるところが大きい。

一九二〇年、十五歳のリードは、学  
校を中退してバンクーバーでCBC(カ  
ナダ放送協会)のアナウンサーになっ  
た。それから以後の十七年間、彼のい  
わゆる「ラジオ局のルンペン」時代が  
続く。各地のラジオ局を渡り歩き、時  
には航空会社で働いたりする。そして  
その間リードは、こつこつと装身具や  
小箱など、小物の彫刻を作り続けた。

Bill McLennan (ブリティッシュ・コロンビア大学民族学博物館) 撮影



リードと作品「ワタリガラスと人間誕生」

トやアルトン、文化人類学者のレビ  
ストロースらが賞賛し、ニューヨーク  
で展覧会が開かれ、カナダの美術館や  
博物館も収集や保存に熱を入れるよう  
になる。クワキウートル族出身の彫刻  
家マンゴ・マーティンにブリティッシ  
ユ・コロンビア大学(UBC)からト  
ーテムポール制作の依頼がくる。UB  
Cは、リードにも、構内にハイダ族古  
来の住居やトーテムポールを再現する  
ことを依頼してきた。

一九五九年、リードは  
ついに「放送局ルンペン」  
から足を洗い、ハイダ彫  
刻に専念することにした。  
その後のリードの活躍  
は目覚ましい。制作面では  
UBCにハイダ部落家  
屋やトーテムポールを  
そっくり再現し、ビクト  
リアの州立美術館に壁画  
を彫り、インディアン・  
モチーフを使った装身具  
なども数多く作っている。

制作だけではない。散逸したインデ  
イアン・アートの調査やインディアン  
・アート・スクール開設といった伝統  
文化の保存・継承活動も精力的に行な  
い、新聞雑誌やラジオの原稿を書いた。  
リードはこの後、パーキンソン病に  
悩まされながらも、新たに版画とシル  
クスクリーンの分野に挑戦し、相変ら  
ず盛んな創作意欲を見せている。

編集後記

●トルドー首相は、二月二十八日の晩、  
吹雪が荒れる首都オタワの街を歩いて  
いました。「私は自分の気持ちに耳を  
傾け、私の運命を示すしははないか  
と空を見上げたが、あるのはただ降っ  
てくる雪だけだった」と、あとで冗談  
まじりに語っています。翌朝、少し柔  
道をやりに、ファイブがでてきた首相は、  
二、三人の友人に相談したあと、一枚の  
短い手紙を書きます。それが党総裁に  
宛てた辞意表明でした。

●ときに政治の都オタワは休暇中。主  
だった閣僚、野党党首をはじめ、ほと  
んどの議員が選挙区や旅行にでかけて  
いる間のできごとでした。

●長年にわたり、カナダの「顔」とし  
て活躍してきたトルドー首相が辞任し  
たあとのカナダは、どう変わるでしょ  
うか。

●日系作家コガワさんは、小柄で気持  
ちのやさしい人でした。一時間以上に  
わたる対談でしたが、スペースの都合  
でカットせざるを得なかったのは残念  
です。  
(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカ  
ナダ政府またはカナダ大使館の考え方  
を反映するものではありません。また  
公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際  
は、できるだけ出典を明らかにして下  
さい。ご意見やご希望は左記の住所に  
ご連絡下さい。

〒107 東京都港区赤坂七丁目三三-八

カナダ大使館広報部